

- 東京2020大会を契機に、「“サッカー”への想いでブラジルを応援したい」「共生社会の実現をレガシーとして残したい」という想いのもと、ブラジルの「ホストタウン(2017年12月)」「共生社会ホストタウン(2018年5月)」に認定。
- 2019年7月の事前合宿を前に、異文化理解教室や障がい者理解教室の開催、市民や企業の協力による市街地や練習会場の歓迎装飾、機運醸成番組の制作など市民総参加の受入準備が加速。
- 合宿期間中は、中学生・高校生が練習のサポートや選手の応援を実施したほか、パラスポーツ体験会や学校訪問、郷土芸能体験など市民との交流も実施。
- 2019年8月には「先導的共生社会ホストタウン」にも認定され、小学生によるバリアフリーマップの作成、中学生・高校生によるホストタウン活動を通じたポスター・ラジオ番組・映像制作などの取組を実施。共生社会の実現に向けた取組は、子どもたちをはじめ、市民に浸透。



中学生制作番組「Força Brasil!!」



高校生と5人制サッカーをするブラジル代表選手



中学生によるインタビュー



高校生による障がい者理解教育



小学生によるバリアフリーマップの作成



市民によるまち歩き調査